

IoT Hub を使用する

100 XP

4 分

Tailwind Traders のシニア リーダーシップ チームは、大手アプライアンス メーカーと提携して、先行メンテナンス サービス契約を約束する排他的ハイエンド ブランドを作成することを決定しました。この独自の機能によって、製品があふれ、競争の激しい市場で、Tailwind Traders のアプライアンスを差別化します。さらに、年次サブスクリプションが必要になるため、この機能により、ブランドの収益が増加します。ブランドの強固な評判を築くために、テレメトリ情報をアプライアンスから集中管理された場所へ送信し、そこで分析して、メンテナンスをスケジュールすることができます。

このデバイスにリモート コントロールは必要ありません。分析とプロアクティブ メンテナンスのためにテレメトリ データが送信されるだけです。

Tailwind Traders では、アプライアンスのメンテナンス要求を管理するためのソフトウェアを既に導入しているため、この会社はすべての機能をこの既存のシステムに統合したいと考えています。

どのサービスを選択すべきか

前のユニットの決定基準を適用してみましょう。

1 つ目は、デバイス (この場合は各アプライアンス) が侵害されないようにすることは重要かということです。デバイスが侵害されないことは望ましいことですが、重要ではありません。最悪の場合でも、ハッカーが読み取るものは、顧客の冷蔵庫の現在の温度や、洗濯機で完了した洗濯物の重さです。

アプライアンスの通常とは異なる動作について顧客から問い合わせがあり、報告されたとしても、技術者ができることは、マイクロコントローラーのリセットまたは交換です。Azure Sphere を採用するために必要な追加の費用やエンジニアリング リソースは保証されない場合があります。

2 つ目の決定の基準は、レポートと管理のためにダッシュボードは必要かということです。この場合は "いいえ" です。Tailwind Traders は、テレメトリ データと他のすべての機能を既存のメンテナンス要求システムに統合することを望んでいます。この場合、Azure IoT Central は必要ありません。

そのため、決定基準に対する答えを考えると、このシナリオでは Azure IoT Hub が最適な選択肢です。

Azure IoT Central を使用する場合

Azure IoT Central には、企業が GUI を介して IoT デバイスを個別または一括で管理し、レポートの表示やエラー通知の設定を行うことができるダッシュボードが用意されています。しかし、こ

のシナリオで、Tailwind Traders は、収集したテレメトリやその他の分析機能を既存のソフトウェア アプリケーションに統合したいと考えています。さらに、この会社のアプライアンスではセンサーを介してのみデータを収集し、設定やソフトウェアをリモートで更新する機能は必要ありません。このため、同社には、Azure IoT Central は必要ありません。

Azure Sphere を使用する場合

Azure Sphere には、セキュリティが重要なシナリオに対応する機能が一式そろったソリューションが用意されています。このシナリオでは、セキュリティは優先されますが、重要ではありません。アプライアンスは、リモートから新しいソフトウェアで更新することはできません。センサーでは使用状況データの報告のみが行われます。そのため、Azure Sphere は必要ありません。